

事例紹介

プログラム助成

北海道本別高等学校  
学校種間連携による地域の理科教育の振興

少子化が進む本別町では小中高ともに小規模校が多く教員の負担も大きい。そこで町内の小中高と教育委員会、研究機関との協働により、地域の理科教育振興を図ることにした。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初の計画を対面からオンラインに切り替えるべく、助成金の資金計画変更でICT機器のいち早い整備を行い、オンラインで行った教員研修や高大連携授業では想定以上の参加者があった。加えて都市部の大学や研究機関など当初の予定より広範囲の連携が図れたことは、北海道では大きなハードルとなっていた移動時間と費用という課題の解決への糸口となった。



宮崎県立宮崎北高等学校  
宮崎近海の海洋マイクロプラスチックの共同研究

宮崎北高校サイエンス科と宮崎海洋高校は13年間にわたって海洋研究者の育成を目標に海洋実習を行っている。2年前の実習中に宮崎港内の海水からマイクロプラスチックを発見したことから、海洋高校実習船「進洋丸」にてニューストネットを曳航し、日向灘のマイクロプラスチックを調査することにした。また宮崎市沿岸の木崎浜や青島などのマイクロプラスチックの有無を北高校で調査する他、海洋高校では遠洋海域でのサンプリングを行っている。理数系高等学校と職業系高等学校の校種を超えた共同研究によりお互いに良い刺激となっている。



個別助成

大島町立さくら小学校  
児童が自ら実験、観察、考察する理科実験を通じた科学的思考の育成(離島支援申請)

離島に住む児童は都会などで行われている科学イベント等に触れる機会が少ない。大手企業で活躍してきた元開発者を島外から講師として招聘して理科実験教室を開催している。間近に見て体験出来る実験教室は児童の理科への興味関心を高めるだけでなく、普段身近すぎて見過ごしてきた離島ならではの有用な教材にも気づいた児童の自己探究のきっかけとなった。さらに将来の仕事に対するキャリア教育にも役立った。事前に教員と講師で指導方法や実験技術を綿密に打ち合わせ共有したうえで実験教室を参観するようにしたことで、教員にとっても実践的な指導力向上にもつながっている。



弘前市立相馬中学校  
地域の大地を教材とした地学分野の学習と防災教育

近年、日本各地で自然災害が多発している。山に囲まれ、川が流れる弘前市相馬地区に暮らす中学生にとって、地域の大地の成り立ちや地形の特徴から起こりうる自然災害を調べ、どのような備えや行動が必要であるかといった防災意識を持つことは必要不可欠である。そこで、身近な白神山地や岩木川、岩木山の地層や岩石、地形を調査して大地の成り立ちを学び、ハザードマップと見比べ、自然災害と防災について考える探究活動を行った。身近な自然を題材にすることで自分たちの生活と直接関連つけて捉えることができ、正しい知識の習得と防災意識を育むことができた。



個別助成

兵庫県立洲本高等学校  
ハイブリッドエンジンを用いたモデルロケットの実験

科学技術部では昨年開発した抗力係数の小さいモデルロケットの機体に取り付けるハイブリッドエンジンの開発に取り組んだ。ショ糖やデンプンと言った食品に含まれる糖を材料とした燃料開発を行い、計44回もの燃焼実験を実施した。研究には大学で学ぶような高レベルな内容も多く、高校の授業で学んだ物理、化学、数学の知識を総動員するほか、大学の研究室とも連携、その連携を通じてコミュニケーション能力も養われるなど、科目横断的な学びがあった。今後もより高出力かつ安価な燃料の完成と打ち上げの成功を目指し更なる努力を続けている。



意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

山形大学 学術研究院  
資格認証制度を活用した小学校の理科に関する専門的資質・能力の育成支援

近年、小学校の教育現場でも教員に対する理科の専門知識の必要性が増している。一方でそれらを育成する研修制度も十分とは言えず、教員の自己啓発等で身に着けた専門性を評価する制度もない。そこで、教育委員会と協働で小学校理科に関する専門的資質・能力を評価・保証する資格認証制度「理科マイスター」制度を確立することとした。様々な教育プログラムを開発・実施するほか、プログラム受講後の教員の理科授業を支援する活動にも取り組む。今後は更に山形県内外の現職教員の学び続ける意欲を高め、資質・能力の高度化を目指している。



文部科学省後援

科学教育振興助成

小学・中学・高校  
教育機関が  
対象です

# その感動が 未来を創る

科学の学びを通じて、子どもたちの興味と  
体験の橋渡しをする助成金のご紹介

令和4年度助成の募集期間

令和3年 10月15日~12月10日





# 科学教育を通じてつくる、発展するチカラ。

中谷医工計測技術振興財団は、将来を担う子どもたちの論理的思考力や創造性を育み成長させることが、科学技術の発展はもとより我が国の発展に寄与するものと考え、小学校、中学校、高等学校における科学教育振興を目的とした取り組みに対して助成する事業を平成26年度より実施しています。さらに、理科好きの小学生を増やすため、意欲的な小学校の先生方を支援する取り組みも行っています。この助成が、科学教育発展にご尽力いただいている皆様の一助になればと考えています。



## 中谷医工計測技術振興財団とは

中谷財団は、シスメックス株式会社の創業者・中谷太郎が昭和59年に「中谷電子計測技術振興財団」として設立しました。その意思を継いだ子息の中谷正の遺贈を受け、平成24年に大きな事業が行える財団へと生まれ変わりました。同年には、公益財団法人に移行し現在の財団名となりました。当財団は、医工計測技術の広範な発展を推進し、社会および国民生活の質の向上に寄与することを

目指しています。医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核として技術開発に顕著な業績をあげた研究者への表彰や技術交流への助成等の事業を行っています。また、若手人材育成のため、科学教育振興をはじめ大学生の留学サポートや大学院生向け奨学金等の助成事業も行っています。

### プログラム助成

#### 助成対象

広く科学教育を振興するため、小学校、中学校、高等学校等の複数校の児童、生徒が主体的に共同で行う2年間の活動。  
※地域特性を活かした取り組みを重視します。

#### 助成金額

最大100万円×2年間

#### 応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校。  
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。  
※高等専門学校は、1～3年生が対象となります。  
※2年間継続して活動いただける組織に限ります。

### 個別助成

#### 助成対象

小学校、中学校、高等学校等における児童・生徒の科学に対する関心を高めようとする授業やクラブ活動等。  
※地域特性を活かした取り組みを重視します。

#### 助成金額

最大30万円×1年間

#### 応募資格

上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。  
※高等専門学校は、1～3年生が対象となります。

### 意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

#### 助成対象

子どもたちの理科の力を向上させるための指導法の改善や学習法の開発などに取り組む意欲的な小学校の先生方、または先生方を支援する機関の3年間の活動。  
※複数の学校が、研究機関(博物館、科学センター、大学等)や教育センター等と共同で行う活動。

#### 助成金額

最大100万円×3年間

#### 応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。  
※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。  
※先生方の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。  
※3年間継続して活動いただける組織に限ります。  
※複数の小学校の参画に限ります。

- 本助成対象は、学校、教育機関であり、先生個人を対象としたものではありません。
- 1校から1件の応募をお願いします。
- 一貫校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校等も対象にします。
- 個別助成、プログラム助成は児童・生徒が主体的に行う活動が対象です。

令和4年度助成の  
募集期間

令和3年 10月15日～12月10日

(助成採否のご連絡は3月上旬に致します)

### 応募方法

当財団ホームページにて、募集要項を確認の上、ウェブシステムよりお申し込みください。  
(募集期間前の入力はできません)  
ご応募の前には、必ずHPのQ&Aをご覧ください。

応募の流れ

ユーザー登録

Web入力

応募完了

### 過去の助成数

第8回(令和3年度) 【プログラム】33件、【個別】60件、【小学校の先生支援プログラム】19件  
第7回(令和2年度) 【プログラム】31件、【個別】62件、【小学校の先生支援プログラム】16件  
第6回(令和元年度) 【プログラム】27件、【個別】63件、【小学校の先生支援プログラム】11件  
第5回(平成30年度) 【プログラム】27件、【個別】60件、【小学校の先生支援プログラム】8件

お問い合わせは、下記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします

最新情報については、ホームページをご覧ください。

<https://www.nakatani-foundation.jp/>



詳しくは

中谷財団

検索